

■開催概要

- シリーズ名称：2022 鈴鹿クラブマンレースRound2
- 主催：淀レーシングクラブ(チーム淀)・鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
- 協力：ARC、ARCN、KRHC、OCCK、AASC
- 後援：鈴鹿市、一般社団法人鈴鹿市観光協会(FEクラス)
- 競技：JAF公認・準国内格式 公認番号2022-3001
- 会場：鈴鹿サーキット 西コース(3.475km)
- 開催クラス：総参加台数/77台
CS2/8台
フォーミュラEnjoy/17台
クラブマンスポーツ/25台
スーパーFJ/14台
FIT 1.5/13台
- 開催日：2022年4月10日(日)
- 天候：晴れ
- 路面：ドライ



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2022/clubman/

■次回レース開催概要

- シリーズ名称：2022鈴鹿クラブマンレースRound3
- 開催日：2022年5月21日(土)・22日(日)
- 主催：熱田レーシングクラブ
- 会場：鈴鹿サーキット レーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催クラス：スーパーFJ(2レース)、FIT、FFチャレンジ、クラブマンスポーツ(VITA)、CS2



スーパーFJは今シーズンからタイヤはダンロップ製で統一された

2020年9月以来となった、西コース開催。 2レースで終盤の逆転劇が見られた。

第1戦が行われた鈴鹿サーキット フルコースから舞台を移して、第2戦は西コースでの開催となりました。昨シーズンはすべてフルコース開催でしたから、西コースでクラブマンシリーズが開催されるのは、2020年9月の第5戦以来と久しぶりのこと。今シーズンもこの第2戦でのみ西コースレース以外はフルコース開催で予定されています。

第2戦では5つのレースを実施。今シーズンからダンロップ製タイヤの装着で統一へとレギュレーション変更のあったスーパーFJクラスは、ほかレースとの兼ね合いから開幕戦ウィナーの岡本大地が不在で迎えることに。着実にポイントを積み上げたいドライバーたちのバトルは終盤にドラマが待ち受ける展開になりました。前回レースでの経験から、ダンロップ製タイヤの特性を掴み切れるかも、勝敗を分ける分岐点になったと思います。

そしてもう一つ、終盤の逆転劇が見られたのがフォーミュラEnjoyクラス。ファイナルラップでの大熱戦は見ごたえ充分でした。シーズン開幕戦となったFIT 1.5 Challenge Cup、クラブマンスポーツ、CクラスとGクラスの混走で争われるCS2クラスも開催されました。

次戦の第3戦は、開幕戦と同じく鈴鹿サーキット フルコースへと舞台を移します。



西コースでのレースは2020年9月に開催されたクラブマンレース第5戦以来だ

■CS2 class

いむらせいじがポールポジションを獲得するが、ホールショットを決めたのはGクラスでエントリーしているFLYING RATだった。さらにCクラスの松本吉章も絶好調で4番手につける。FLYING RATを先頭に濱野隆一、松本が上位陣を形成してレースは展開されていく。スタートで出遅れたいむらも、上位陣に加わる見事な走りで見事なレースは混沌としてくる。レースはGクラスのFLYING RATが安定した走りを披露してトップチェッカー。Cクラスは松本がクラス1位だった。



#24のFLYING RATは、スタートダッシュに成功してそのまま逃げ切った



Gクラスの表彰式はFLYING RAT、2位はいむらせいじ、3位は吉村一悟となった

■CS2 class



写真はCクラスの表彰。クラストップは松本吉章がキープ。伊藤豊と続いた

■クラブマンスポーツ Class

ポールシッターの大八木龍一郎は、好スタートで発進する。レースは大八木、OYAMA MASAYOSHI、中里紀夫、さらにTOMISANが続く。序盤、マシンによる接触からセーフティカーが導入される。残り7周でセーフティカーランは解除され、OYAMAとTOMISANによる2番手争いが激しくなる。トップの大八木、2番手のTOMISANがそれぞれ単独走行になると、3番手の中里は後半で痛恨のスピンド順位を落とす。レースは大八木、TOMISAN、上岡広之の順でフィニッシュした。



#1大八木龍一郎がポールtoウィン。完勝と呼べる内容だった



優勝した大八木龍一郎、2位のTOMISAN、3位の上岡広之

■スーパーFJ class

ポールポジションからスタートしたのは清水啓伸だった。清水は見事にホールショットを奪うと2番手に森山冬星、さらに居附明利、大木一輝といったドライバーたちが追う展開になる。レースは3周目、森山が清水をパスしてトップへ浮上する。森山が順調にラップを刻むなか、10周目になると3番手を走る居附が清水をパスして2番手につける。我慢しながら上位をうかがっていた居附は、13周目にしてついにトップを走る森山をパス。居附は見事、レース終盤での逆転で勝利を収めた。



#39の居附明利。3番グリッドスタートながら、13周目でトップに立った



優勝した居附明利、2位は森山冬星、3位には清水啓伸となった

■フォーミュラEnjoy Class

山崎一平は開幕戦に続き、2戦連続となるポールポジションでレースを迎えた。マイスターズ・カップのトップは2番グリッドの大川文誠だ。レースは山崎、小嶋禎一、Ryuu Mao、大川、永井秀和の順で前半スタート。マイスターズ・カップのトップ争いは小嶋、Ryuu、大川による三つ巴の戦いだ。盤石に思われた山崎に対して、ファイナルラップで2番手の小嶋が勝負に出ると、ショートカットでオーバーテイク。小嶋はトップに立つと逃げ切り、さらにRyuuも2位チェッカー。3位表彰台は山崎となった。



レース前のグリッド。優勝したのは3番グリッドスタートの#1小嶋禎一



逆転勝利の小嶋禎一。2位はRyuu Mao、3位の山崎一平は悔しいレースだったか…

■フォーミュラEnjoy Class マイスターズカップ



マイスターズ・カップのトップは小嶋禎一、2位はRyu Mao、3位は大川文誠

■FIT 1.5 Challenge Cup

伊藤裕士がポールポジションを獲得。レースは伊藤、2番グリッドの岡田拓二、3番グリッドの相原誠司郎、4番グリッドの山内志が、それぞれ問題なくスタート。上位4台はオーダー通りで、オープニングラップを終える静かな展開で幕を開ける。終始、盤石だったのがトップを走る伊藤だろう。伊藤は7周目時点で2番手を走る岡田との差を3秒273にまで広げるほど、アドバンテージを築き上げる。すると、3番手を走っていた山内は7周目で無念の接触。これにより順位を下げてしまう。レースはそのまま伊藤が鈴鹿での今シーズン開幕戦を完全勝利、2位は岡田、3位は相原となった。



#80の伊藤裕士は一度もトップを譲らない、危なげないレース運びだった



優勝した伊藤裕士、2位は岡田拓二、3位には相原誠司郎がつけた

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

CS2 Class、今シーズンの2戦目を制した

FLYING RAT 選手 (WEST RACING CARS)



GクラスのFLYING RATが総合優勝を決めて見せた

Q: 決勝は2番グリッドから。スタートが見事でした。

「特に西コースは、抜きどころも少なくスタート勝負だと思っていました。チームのみんなから、スタートについていろいろとアドバイスをもらい、生かすことができました」

Q: すぐトップになり、一度も譲らなかったですね。

「予選は赤旗中断があり、決勝もセーフティカー導入があり、難しかった。ただ、トップにそれほどタイムで負けてない自信もありました」

Q: 次レースの予定は決まっていますか。

「おそらく、次に鈴鹿を走るのは9月のクラブマンになると思います。毎年、自分の都合も考えながら、参加できるレースを楽しんでいきます」